

リレーエッセイ

ハードルを越えて

18

そ やま ま さ き
曾山 正樹さん
(南さつま市)

私は1985年8月に海水浴で事故に遭い頸髄けいずいを損傷し重度の四肢麻痺となり特に両手の指、胸から下が不自由になりました。その後、病院で寝たきりの生活が1年ほど続きましたが、約3年の入院生活を終えて自宅で車いすの生活となり、同居する母や姉、甥の協力を得て日々の生活を送っていました。何か自分に出来ることはないのだろうかと日々考えていたところ、1996年ごろ身体障害者授産施設（知覧ふれあいの里）に通所しないかとの話があり、自分にできる木工の絵付けの作業があるとの事で2年ほどトールペイントなどやっていました。

そんな折、1998年南さつま市の絵画グループに所属する久保忠さんに出会い、油絵を習い始めました。2002年2月に施設を辞めてから現在に至るまで月1度、久保さんが自宅を訪れ指導してくれます。久保さんが提供してくれる近辺の風景写真や季節の花々、姉が届けてくれる花をサムホールからF10号までの作品に仕上げています。

ケイソン（頸髄損傷）になってからというもの、体調管理がとても大事でトイレの日や入浴の時間と曜日もほぼ決まっています。入浴はヘルパーさんをお願いして週3回（月・水・金）となっています。そういう訳で油絵制作は、そのあいま火・木・土と曜日が決まっています。

昨年の夏は地元で油絵展を開催させていただきました。たくさんの方に見ていただき、励ましの言葉も掛けてもらい大変うれしく今後の励みになりました。「自分に出来ること、それを続けること、そして何よりも楽しむことが大事なんだな」と油絵生活13年を通して学んだような気がします。

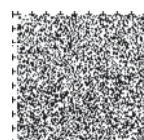
絵を描いていると、時間を忘れ無心になれます。作品を仕上げるヨロコビと苦しみがあって、思い通りにならないところが、続けられる理由のひとつになっているのかもしれませんが。今後も、出会った人々に感謝を忘れず、自分の色と個性を出せるように地道にコツコツと出来る範囲で楽しみながら描いていこうと考えています。機会があれば、また展示会や個展をやりたいと思っています。

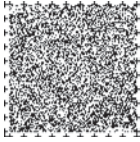
●曾山 正樹さん
南さつま市生まれ 51歳



静物画のほかに風景画も得意とする

知覧ふれあいの里で絵画を始めた頃の曾山さん





KAGOSHIMA バリアフリー最前線 Barrier Free-Saizensen

鹿児島県内のいろいろな建物や施設、あるいは人の心の中にあるバリアを取りはらわれています。一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。



子供たちに大人気の図書コーナー

● 始良市東餅田の閑静な住宅街に、真っ白な外壁が印象的なモダンな建物がある。平成22年4月に建設された「建昌保育園」の新しい園舎だ。
楽しい遊びの中に、学びをプラスした充実の保育内容で知られる、建昌保育園は昭和52年に開園。新築移転と同時に開設した、地域子育て支援センター「建昌っ子」は、子育て親子の交流や育児相談の場としても活用されている。

すべての人にやさしい
光と風と緑にあふれた保育園



建昌保育園

住所 始良市東餅田2602
TEL 0995 (67) 3333
FAX 0995 (67) 3406
ホームページ
<http://kenshofukushikai.com>



玄関から室内まですべてバリアフリー設計



男子トイレと共有にならしている1階の多目的トイレ

鹿児島県福祉のまちづくり条例の適合証交付施設である新園舎は、緑の木々が心地良い園庭を含め、全館が子供からお年寄りまで幅広い世代に対応できるバリアフリー設計。開放感漂う大きな窓からは明るい光が差し込み、木のぬくもりが伝わる床は裸足で歩いても心地良い。1階には遊戯室を兼ねた子育て支援センターのほか、階段下を利用した図書コーナーも。また、車椅子の方でも利用可能な「多目的トイレ」も設置されている。

一人で悩んでいませんか？ 自殺予防について

毎年、全国では約3万人、鹿児島県では約5000人の方が自ら命を絶っています。
自殺の原因は複雑で、その背景には、こころや体の健康問題、経済・生活問題、家庭問題のほか、人生観・価値観や地域・職場環境など、さまざまな社会的要因が関係しています。
このことから、自殺を個人的な問題として捉えるのではなく、私たちひとりひとりが、自分自身の問題として捉え、社会全体で総合的な対策を行う必要があります。

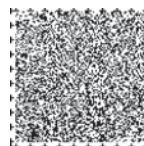
【自殺のサイン（自殺予防の10箇条）】

- 次のようなサインを数多く認める場合は、自殺の危険が迫っています。
- 1 うつ病の症状に気がつけよう（気が沈む、不眠が続く等）
 - 2 原因不明の身体の不調が続く
 - 3 酒量が増える
 - 4 安全や健康が保てない（なげやりになる）
 - 5 仕事の負担が急に増える、大きな失敗をする、職を失う
 - 6 職場や家庭でサポートが得られない
 - 7 本人にとって価値のあるもの（職、地位、家族、財産など）を失う
 - 8 重症の身体の病気にかかる
 - 9 自殺を口にする
 - 10 自殺未遂に及ぶ

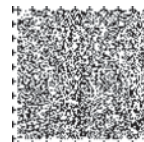
また、気分が沈んだり、不眠等のうちの症状や原因不明の体調不良が続くなど、何らかの「自殺のサイン」を発している人に気がついたら、「疲れていない？大丈夫？」等と声をかけてください。
そして、悩みを抱えている方は、決して一人で悩まずに、誰かに相談しましょう。

【相談窓口】
県自殺予防情報センター
☎0995-2288-9558

【お問い合わせ先】
県庁障害福祉課精神保健福祉係
☎0995-2288-2754



鹿児島県からの お知らせ



鹿児島県難病相談・支援センターが新設されました

鹿児島県難病相談・支援センターは、平成23年10月1日（土）ハートピアかごしま3階にオープンします。

住 所 鹿児島市小野一丁目1-1（ハートピアかごしま3階）

電話番号 099-218-3133 **fax 番号** 099-228-5544

☆専門スタッフが相談対応いたします。

午前9時～午後4時（但し、火曜日、祝祭日・年末年始を除く）

かごしま難病支援ネットワーク（難病患者団体横断的組織） の事務局もセンター内に設置されました



難病患者会の皆様がピア相談を行います。一人で悩まずに、まず、御相談ください。

※ このロゴマークは難病患者団体の方々が想いを込めて作成したものです。

住 所 鹿児島市小野一丁目1-1（ハートピアかごしま3階）

電話番号 099-218-3455 **fax 番号** 099-228-5510

身体障害者補助犬について

身体障害者補助犬とは、身体に障害のある方の社会参加の手伝いをする犬のことで、「盲導犬」、「介助犬」、「聴導犬」のことをいいます。

公共施設をはじめ不特定かつ多数の者が利用する施設（ホテル、旅館、飲食店、病院、スーパーマーケットなど）を管理する者は、補助犬を受け入れることが法律で義務付けられています。

なお、県では、身体に障害のある方の就労等社会活動への参加を促進を図ることなどを目的として、昭和63年度から「身体障害者補助犬給付事業」を実施しています。

補助犬及び補助犬給付事業に関する詳細は、県ホームページで公開しています。

<http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/shintai/shien/>



Vol.22 平成23年9月30日発行

[感想をお寄せください]

鹿児島県保健福祉部障害福祉課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

TEL.099-286-2111(内線2746) FAX. 099-286-5558

[E-mail]shougai@pref.kagoshima.lg.jp

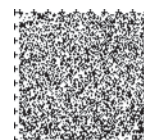
[URL]<http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/index.html>

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へご連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視聴覚障害者情報センター（鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F TEL.099-220-5896）に備え付けてあります。

[SPコード]について

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々を[SPコード]（音声コード）といいます。この18ミリ四方の一つのSPコードのなかに、日本語で約800字のテキスト情報を格納することができ、専用の読み取り機でSPコードを読み込むと、そのページの内容を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもSPコードの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています